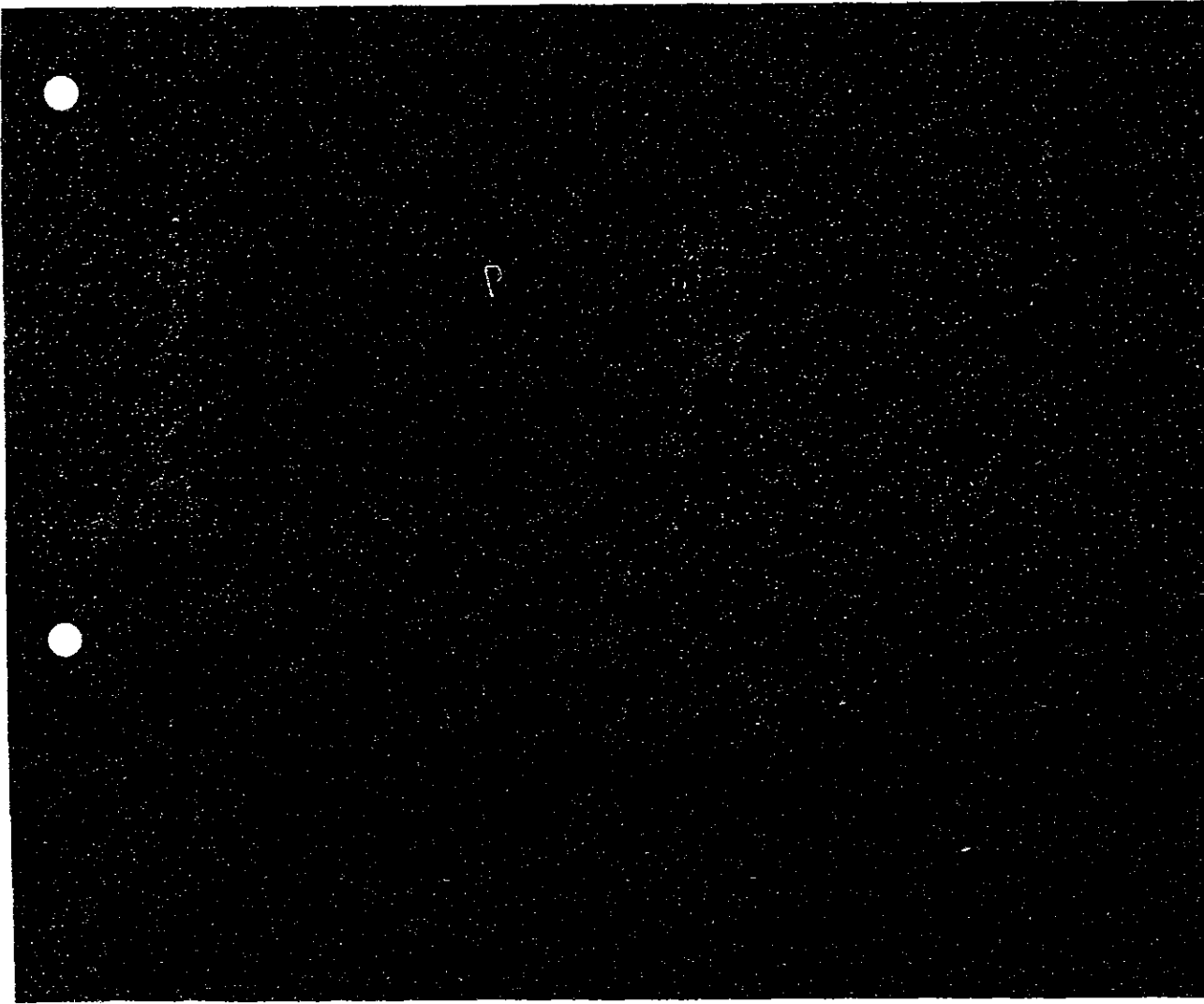


六稜會報

平成6年9月20日発行
発行 大阪府立北野高等学校内
六稜同窓会
〒532 淀川区新北野2-5-13
電話 06(306)0374代表
振替 00990-4-88025
六稜同窓会名簿口座
振替 00910-7-309004
編集 山本次郎・菅 正徳
岸田知子・鎌田俊一
印刷 フジエフオート印刷
電話 0729(87)8254

NO. 28

1994・9・20



佐伯祐三 街角 (パリ・モロジャフエリ広場) 25号 (1925年)
田中 睦氏 (62期) 所蔵

121周年総会

会場 北野高等学校

大阪市淀川区新北野2丁目5番13号

☎06-303-5661

日時 10月30日(日)

0:00 PM 受付

1:00 PM 総会・卓話(講堂)

3:00 PM パーティー開宴(食堂)

(新人歓迎 立食パーティー・ビール飲み放題)

会費 5,000円 (但し、H2卒以降=卒業5年以内と) ※乞う
S12卒以前=75歳以上の方 — 無料 出席通知

できますれば年会費2,000円も併せてお支払い下さい。

卓話



「北野 NEXT CENTURY PROJECT」

ネクスト・センチュリー・プロジェクト

京都大学工学部建築学科助教授

竹山 聖氏 (85期)

卓話者の
ご紹介

1954年12月24日、大阪に生まれる。

北野高校を経て、1977年京都大学の建築学科を卒業後、東京大学大学院に進学。

阪大の下で修士課程、博士課程を修める。この間、1978～9年の「西アフリカ地域海外集落調査」に参加。大学院在学中の1979年には設計組織アモルフを創設し、設計活動を開始。また、さまざまなメディアのコラムを担当すると同時に、イェール大学建築誌「パースペクティブ」(1983年)の安藤忠雄論、毎日デザイン賞を受賞した「文感スルデザイン」(1985年、六耀社)の共同編集・執筆など、新鮮な語り口による批評活動をも展開。建築作品は1982、83年の第1回、2回SDレビューを受賞した高尾と古河の住宅をはじめとし、1986年湘南台文化センターコンペ・2等入賞、第二国立劇場コンペ・BEST30、87年愛知県新文化会館コンペ・佳作、同年のOXY乃木坂はアンドレア・パラディオ賞入選。88年の経井沢の別荘で吉岡賞受賞。89年D-HOTEL大阪、箱根・強羅花壇は話題を呼ぶ。91年青山にテラツツア、またTBS「ニュース23」のガラスのスタジオセットを手がける。92年から京都大学助教授。旺盛な設計活動と並行して、学生たちと古代都市遺構を訪れ、都市発生を探求、また、現代都市のヴィジョンをも提案。

最新作に周東町バストラルホール (1994年、山口県)

著作に作品集「竹山 聖」(1990年、六耀社)。写真集「都市を呼吸する」(1994年、リプロポート)

展覧会に1989年個展「不連続都市」ギャラリー間、1990年に始まる「Emerging Japanese Architects of the 1990s」はニューヨーク、ボストン、セントリオール、ヒホン、マドリッド、バルセロナ、テサロニキ、ニコシアと巡回中。

1991年には「鏡の表現—眼と手のゆくえ展」(埼玉県立近代美術館)に招待出品した。

ご 挨拶

会長就任にあたって



六 稜 同 窓 会 会 長

稲 畑 勝 雄 (第56期)

〔略歴〕1926年生。1947年京都帝国大学法学部卒業。稲畑産業㈱取締役社長。住友製薬㈱取締役相談役。大阪商工会議所副会頭。関経連・日本貿易会・大阪工業会各常任理事ほか。ポルトガル共和国大阪駐在名誉領事。日仏文化協会副会長。大阪日仏協会会長。1991年フランス、レジオン・ドヌール勲章受章。

去る5月14日開催の常任理事会ならびに理事会において、不肖、六稜同窓会会長の重任を仰せつかりました。

菲才ではありますが、皆様のご支援・ご教示を得ながら、伝統ある本会の更なる発展のために微力を尽くしたいと存じますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

顧みますれば、昨年は母校創立120周年という大きな節目を迎える時期に、故鴻池藤一前会長のご不例という事態が出来いたしました。河崎晃夫副会長を中心に関係各位の絶大なご協力を得て、10月30日の記念式典と行事を盛会裡に挙行することができました。

本年3月9日、鴻池先輩のご訃報に接しましたことは痛恨の極みで、ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げる次第であります。

さて、あらためて申すまでもなく、六稜同窓会は、18世紀以来大阪の町に根づいた自主・自由の学問の土壌の上に、難波御堂に門を開き、幾多の人材を世に送り出してきた母校と共に歩みつづける永遠の大コミュニティであります。

一切の利害関係を排し、職業・信条などの違いに捉われることのない点で、集団としての連帯感は緩やかなものではありますが、その反面、単なる情緒の域にとどまることなく、地域とのヨコのつながりと年代を超えたタテの人間関係の両面において、社会の負託に 대응していく力をもつと同時に、世間からもそのように期待されている存在であると申せましょう。

また、さきの大戦後占領軍による学制改革の暴挙が実施された結果、後継を断たれた旧制高校の同窓会がいまや消滅に瀕し、高校の場合も大半が新制・旧制に分裂し

ている状況の中で、六稜同窓会が新旧一本の体制を堅持している少数派に属することは、この際、運営の基本に関わる特質として、全会員に再度ご認識頂きたい事柄であらうと思われま。

今般、河崎先輩に引き続き東京六稜会会長のご兼務をお引き受け頂くと共に、新たに新制第二回の卒業生である山本次郎氏に副会長ご就任をお願いしたのも、このような流れに沿ったものとご理解頂ければ幸いです。

近年、世界情勢が激変をつづける中で、日本が果たすべき役割が各分野に亘って問い直され、広い視野と豊かな国際感覚をもつ人材の育成が国民的な課題となっていることはご承知の通りであります。

創立百周年記念に同窓会が寄贈した大阪城の梅林が広く市民に親しまれていることは先ほど触れたヨコのつながりの一例ですが、このような情勢に照せば、同窓会の基金の一部を在校生の国際交流に当てるなど、タテのつながりを強化していく企画についても、今後一層のご理解とご援助を得て推進するべきでありましょう。

今春の異動で校長のご交替があったほか、同窓会事務局長が代われ、常任理事にも若干の変更が予定されておりますが、時は移り人は変わっても、北野高校と六稜同窓会は恰も車の両輪の如く手を携えながら、時代の要請にふさわしい活動を継続していくことと確信いたします。

終りに、重ねて同窓会の諸事業に関するご理解とご参加・ご支援をお願いいたしますと共に、会員の皆様のますますのご多幸とご活躍をお祈り申し上げまして、会長就任のごあいさつといたします。

会 務 報 告

本年は新名誉会長・新同窓会長のご就任を始め、大幅な人事の異動がございました。

稲畑副会長(65期)の会長就任にともなう副会長職の後任を山本次郎(62期)氏にお願いすることになりました。

また、長年、常任理事として本会の充実とりわけ昨年の母校創立120周年記念行事・事業の成功に多大の尽力をいただきました緒方正美(53期)・奥田 亘(57期)・楢崎浩二(59期)・日高 成(60期)・木村市三(73期)・上田英美(99期)の六氏が勇退され、緒方・奥田の両氏には今後は顧問としてお力添えをいただくことになりました。また、事務局長として3度にわたる名簿の発行・会費の増収などに尽力されました 平 浩行事務局長(48期)も勇退され、あらたに後任として新原知廣(72期)氏を迎えました。

それをうけて、常任理事会では、あらたに数名の補充・増員をはかり、次の陣容で、今後の同窓会運営わけても基金の運用あるいは母校改築といった重要懸案事項に取り組んで参ります。今後ともご協力賜りますようお願い致します。

名誉会長(学校長).....	山 崎 浩 和		
会 長.....	稲 畑 勝 雄(56期)		
副 会 長(兼 東京六校会会長).....	河 崎 晃 夫(49期)		
副 会 長.....	山 本 次 郎(62期)		
常任理事.....	大 山 利 雄(56期)	緒 方 正 名(56期)	西 脇 伊 兵 衛(58期)
() は新任)	尼 崎 孝 雄(58期)	大 岩 重 雄(60期)	内 藤 寿 一(61期)
	堤 英 子(63期)	原 田 彰(65期)	丸 野 豊 子(66期)
	神 宅 寿 昭(67期)	邑 上 治 兵 衛(68期)	菅 正 徳(69期)
	清 原 祥 恵(69期)	南 尚 三(72期)	川 畑 英 雄(74期)
	岸 田 知 子(78期)	寺 井 あ かね(81期)	宮 田 薫(91期)
	西 村 典 子(95期)		
学内常任理事	肥 塚 敏 彰(教頭72期)		
	小 出 猛(66期)	鎌 田 俊 一(81期)	内 藤 伸 彦(87期)
事務局長	新 原 知 廣(72期)		
顧 問	緒 方 正 美(53期)	奥 田 亘(57期)	



事務局長就任の

ご挨拶

新 原 知 廣 (72期)

北野高校六校同窓会の会員みなさまに、この5月より同窓会事務局長に就任いたしましたご挨拶を申し上げます。

私は昭和35年に、安保闘争が激化しつつある世相の中、母校を卒業いたしました。在学中は柔道部に属しながら、動評闘争時の自治会で少々活動しました。動評評定というのは、校長先生が教員の成績表を作って、府教育委員会に報告するというものであります。その様な先生の成績表が何のために必要なかわかりませんが、当時の日教組は、民主教育の危機であるとして、非常事態を宣言し、全国の学校現場に闘争を指令しました。我らが母校

も組合に属する多くの先生方と、校長の動務評定を提出する仕事を支えようとする少数の先生方との対立は、深まって行くばかり。府立高校の代表である北野では、府教委も高教組も拠点校に指定し合い離らず昭和34年2月闘争はピークに至り、自治会と多くの生徒の支援もむなく、動評は府へ届けられました。

以来35年を経て、少なくとも人事権は完全に府教委に握られている中で、母校北野が今もリベラルな校風を守り、締め付けられるをよしとしない気骨ある先生方によって守られているのか、僭越ながら気になるところです。そんな思いをいたしながら、事務局の仕事に励んでおります。

前事務局長は48期の平 浩行氏が11年間務めてこられました。3度の名簿発行、2度の記念事業に関われ、年会費の徴収、管理にも尽力されました。紙面をかりてわざわざ申し上げますとともに、いつまでもお元気で、また事務局をよろしくご指導くださいますようお願い致します。

(略歴) 曾根崎小学校、菅南中学校、北野を経て、早稲田法学部卒、3年間の化学工場労働者、2年間のポンプ営業部員を経験して、家業の繊維卸売業を経営、現在に至る。53才。長男は98期生。

会 計 報 告

平成5年度 六稜同窓会 一般会計報告

科 目	5年度予算	5年度決算	備 考
収入の部	円	円	
1. 前年度繰越金	695,012	695,012	
2. 入会金収入	1,530,000	1,504,000	
3. 年会費収入	10,000,000	302,000	
4. 利息収入	10,000	4,541	
5. 120周年特別会計から戻入	0	0	
6. 基金会計から借入	0	0	
7. 基金会計より繰り入れ	3,060,000	3,060,000	
収入合計	15,295,012	5,565,553	
支出の部			
(1) 運営費	7,800,000	4,597,039	
1. 人件費	4,500,000	2,669,000	
2. 旅費・交通費	300,000	258,320	
3. 通信費	300,000	390,025	予算超過額 90,025
4. 印刷・事務用品費	500,000	397,868	
5. 会議費	1,000,000	336,839	
6. 慶弔費	700,000	468,971	
7. 雑費	500,000	76,016	
(2) 会報発行費	6,090,000	0	
1. 編集費	90,000	0	
2. 印刷費	3,000,000	0	
3. 発送費	3,000,000	0	
(3) 予備費	1,105,012	64,000	前年度臨時同窓会費の戻入金の繰入
(4) 全国大会出場援助費	200,000	70,000	予算超過額 20,000
(5) 国際交流援助金	100,000	120,000	
支出合計	15,295,012	4,851,039	
次年度繰越金	0	714,514	

全国大会等出場激励金

六稜同窓会では現役諸君の部活動を支援する意味から、その活動が顕著と認められた部、個人に激励金を贈っている。本年度の団体、個人は以下の通りであった。

- 近畿大会 陸上部個人 女子200m(3年 新井梨恵子) 10,000円
- 近畿大会 陸上部 女子400mリレー(3年 川崎・新井・法貴・大坂) 30,000円
- 全国インターハイ 山岳部 男子団体(3年 野々目・松井・芹沢・宮田) 70,000円
- 全国高校総合文化祭府代表として出品及び出場
- 書道部個人 女子(3年 村上仁美) 20,000円
- 近畿選手権 陸上部個人 女子7種競技(2年 羽馬梓) 10,000円
- 近畿大会 陸上個人 女子走幅跳(2年 羽馬梓) 10,000円
- 近畿大会 山岳部 男子団体新人戦(2年 塚本・田淵村田・小菅) 30,000円
- (なお、山岳部男子は、1昨年に続いてのインターハイ出場で、見事全国3位の好成績を取めました。)

平成5年度 六稜同窓会名簿特別会計報告

科 目	5年度予算	5年度決算	備 考
収入の部	円	円	
1. 前年度繰越金	702,463	702,463	
2. 名簿売上収入	22,000,000	18,352,000	3662部 前年度 5,000円
3. タグシール売上収入	20,000	33,450	168件 前年度 575,000円
4. 広告収入	12,000,000	10,325,000	
5. 利息収入	30,000	76,463	
6. 雑収入	0	3,000	コピー収入
収入合計	34,752,463	29,492,386	
支出の部			
1. 名簿発行費	11,000,000	11,216,700	5500部× 1980
2. 発送費	1,500,000	1,570,153	
3. 雑費	200,000	213,063	
4. 更新費	2,000,000	0	
5. 予備費	602,463	910,567	
6. 記念事業会計との清算金	450,000	450,000	振込用紙作成費 139,000
7. 記念事業会計への戻入金	2,000,000	2,000,000	88,784 通信費
8. 記念事業会計への繰入金	17,000,000	13,000,000	444,960 広告類下作成費 237,823 宛送用ダンボール作成費
支出合計	34,752,463	29,360,483	
次年度繰越金	0	131,903	

名簿在庫状況、製作部数5500、売上(代済分)3663、売上(未納分)437、寄附分330、残部1070冊

平成5年度 六稜同窓会基金会計

科 目	決 算	備 考
収入の部	円	
1. 前年度繰越金	75,331,443	大和会館信託・郵便局定期貯金・国債・現金
2. 利息収入	2,259,085	120周年記念
3. 他会計より積み立て	35,000,000	事業特別会計中の積み基金
収入合計	112,590,528	
支出の部		
1. 記念事業会計に移管	5,940,000	
2. 一般会計に移管	3,060,000	
支出合計	9,000,000	
次年度繰越金	103,590,528	大和会館信託・郵便局定期貯金・国債・現金

以上の通り平成5年度六稜同窓会基金会計報告を致します。
平成6年5月14日

六稜同窓会会長 柳 畑 勝 雄

本会計の正確であることを認めます。

平成6年5月14日

六稜同窓会監事 滝 井 尚 三

六稜同窓会監事 新 田 圭 兒

六稜同窓会基金運用規定きまる。

100周年を契機として、同窓会の基金をまず1億円にという目標を立て、歴代の執行部は腐心してきた。ここにきてようやく、1億円の額に到達したこともあり、今後は「同窓会会館建設など同窓会事業の基盤強化のため」基金の運用・保全をはかることになった。本年度総会の承認を得て、実行されることになる。

北野教後史

題字 泉 佛二元校長

連載第16回

私記・北野高校

柏尾洋介



はじめに—強制異動第1号

1966(昭和41)年3月28日、大阪府教育委員会は、突然、府立高校教員129名の4月1日付異動を内示した。清水谷高校で11年(講師3年、教諭8年)、その春も担任として卒業生を送り出したばかりの私は、その日の夕方浦野博夫北野高校長からの使者の来訪を受けて、自分が異動当事者のひとりであるらしいとはじめて知った。いま、突然の内示といったが、前触れめいたことがひとつだけあった。「適正」な教員人事異動の断行が急務と強調する府教委広報の最新号が、直前に全教職員の自宅へ郵送されていた。私の記憶では、茶木の拙宅へは当日すなわち28日の午前配達されたばかりであった。寝耳に水、とくに郵便との飛脚競走のように教師が手軽に「飛ばされる」事態に強く反発した私は、大阪府立高等学校教職員組合の強制異動反対闘争に、分会役員の経験もないヒラ組合員であったが参加した。北野高校に赴き辞令を受けたのは、始業式前日の4月7日の午後になってからである。そこまで粘った一般組合員はほんの数名であったが、この異動方式は翌67年春、もう一度強行されたのみで取り止めになった。

こうして、私は望まざして北野高校の教師となった。にも拘らず、定年まで25年間もそのまま北野で過したばかりか、その後も居坐り続けている。自分でも、爆化植物の如しと思うときがある。小稿は、このような私から見た最近約30年間の北野の、いくつかの小さな一しかし些細ではない事柄についての私記のつもりである。

1966年春

81期生の入学式当日とも知らずに、まだ清水谷へ“出動”中の4月1日、私は北野の教師二人の初訪問を受けた。ひとは社会科主任の錦田真和先生で、先生は私の卒業論文のテーマなど専攻領域を確認の後、単刀直入に3年生への日本近代史講義に自信の有無を質されたが、授業の内容と方法は自由とされた。いまひとは分会長の田上泰昭先生で、田上さんは簡明率直に、「聽って、そして北野へ来て下さい。」と云って下さった。

4月7日、玄関の床面にローマ数字で1930とあるのを見て、この本館は私と同年かと思ひ乍ら校長室へ入ると、正面の壁には佐伯祐三の「ノートル・ダム」が掲

ているではないか。クリーニング前のこの作品は、暗い室内では輪郭も定かではなく、当時はマント・ラ・ジョリの聖堂とは知らなかったが、浦野校長との会話中、とすれば私の目は画の方に向かうのであった。

4月8日朝、運動場に全校生徒がスピーディーに、かつ美しく整列した光景は印象的であったが、対面式で上級生代表が、敢然と学校の生徒指導の統制過多を批判する姿はそれ以上に印象的であった。その幾日か後の分会会議で長谷川寛治先生が、民主主義ではテニスと同様に、ルールに劣らずマナーが大切なのだと指摘された言葉とともに、1966年春の北野の、忘れられぬ幾コマかの情景の中のひとつである。

谷崎松子や友井由紀子の母校清水谷の生徒も好ましいが、北野の生徒が、始業チャイムとともに聴講態勢に瞬時に切り替え、ときには新入り教師に難問奇問を呈上する茶目っ気の持ち主であるのに私は大いに気に入った。「見知らぬ乗客」を教員は何気なく、他の職員は温かく迎えて下さった。この春は、岡島吉郎、島内義一郎、川井義通の三長老が勇退され、零石鉦吉先生も池田高校長に転出されるなど、校史上からはひとつの曲り角の年であったのかも知れないが、常勤教員57名の平均年齢は、40.2歳、北野での平均在職期間9.5年(20年以上4、15年以上14、10年以上8、5年以上8、5年未満23)、そして私は35歳であった。(1966年の「学校要覧」より、誤りは訂正して算出。以下に引用の校内関係事項の数字も各年度の「要覧」による。)

“北野風”

最初の教年間、教務部で時間割作成にかかわった他は、私の北野生活の大半は校史編纂と図書館業務で占められるが、その前に、いわゆる紛争に関連して、60年代末頃の教師や生徒の気風に言及しておこう。

演劇部にはじまって弁論部、社研部、少しおくれて新聞部など、ときには数部の顧問を私は兼ねたが、60年代末に高まった生徒の運動では、弁論部・社研部の諸君が中心になることが多く、私は彼らの頼りなき顧問として右往左往した。この問題については本連載でも、浦野・泉の両元校長と水落和沖氏の、それぞれに貴重な回想文があり、また記念誌「北野百二十年」で適切に要約と解説がなされているから、私はごく個人的な思い出と感想を。

多くの学園が文字通り荒れたのに、北野では授業が途切れることがなく、封鎖行動もなかった。動評闘争でハントに突入した教師たちが、授業は絶対に欠くことをしなかった学校に相応しいことであるが、北野における1967~69年の生徒諸君の動きは、人間的な生き方を追求する学園闘争の原点に近いものがあったと私は思う。

「戦後」を自らに問わずに「吉田 茂国葬」に従うことへの抗議(1967.11.1)は、彼らが明敏でおませであったが故の行動という一面がある。この性格は終始変わらず、北野は他校よりも早く揺れ、早く静かになった。その頃は府高教でも党派色を異にする二・三のグループ間の対立が激化していたが、北野分会は一方に与しない

“独立”分会であった。何時だったか、当時の小巻敏雄委員長がオログに来たときも、彼の入室と発言を許すか否か、委員長を室外で待たせて分会員は論議したものであった。この教師の気風との関連はわからないが、生徒の運動が外部のセクトに制せられることはなかった。あの「井上 清教授講演問題」(1969. 6)も、結局は生徒諸君の、自らの進路を真剣に考える知的で自主的な空気が、大勢を決したのである。田上さんや藤尾直正氏ら二三の同僚とともに、生徒との討論会に講堂へ引っ張り出されたとき、「先生は、なぜ生きているのですか」と質問されたことも思い出す。

京大の正門に入った築山にある大きな楠は、学園闘争中に伐り倒されようとしたが辛くも助かった。しかし痛ましい傷跡が残ったという。北野の大楠も校舎も、そのような不幸には遭わなかった。よかった、と思う。しかし、われわれ、いや私は生徒諸君の真剣な問いに、正面から応えたであろうか、恥ずかしく思う。

校史編纂と記念展示

1973(昭和48)年の「北野百年史」刊行を最大使命として、村川行弘氏を主任に、深江 浩氏と水落さんと私の計4人の委員からなる校史編纂委員会が、1968(昭和43)年に発足したとき、迂闊にも私は、校史の編纂という仕事が殺人的オーバーワークになるとは見通せなかった。上述の、いわゆる紛争関連に時間と精力をとられることも多く、本格作業に入ったのは水落さんの回想にあるように、1971年になってからであった。校内史料の調査や史料探訪の多くは4人が共同で行なったが、分担執筆したB5判約2000ページの大冊を期日通りに完成できたのは、チームワークの良さとそれを作り出す村川チームの力量による点が甚だ大きい。110周年・120周年などの記念行事を経験してきて、ますます、そう思う。なお73年春、新任と同時に委員となった弱冠23歳の加藤泰男氏の献身的努力も忘れられない。

72年春であったか、私の執筆担当部分は、1873(明治6)年の欧学校開校から、1902(明治35)年の北野中学校と改称・移転までの初期29年間と決まった。もっとも興味深く意義深い時期であり、この部分を勉強したために、少し北野のことがわかるようになった、と今では喜んでいるが、72年秋、筆を執りはじめたものの、ことに前半期の史料不足に難澁した。近畿大学教授末中哲夫氏(55期)と大阪市史編纂所長藤本 篤氏の御好意で、近畿大学図書館と大阪市立中央図書館で「文部省年報」を閲覧、復写することができてからは筆が捗り、73年春には脱稿にこぎつけたのであった。

授業を正規に担当し乍らの執筆で、半徹夜が連続数ヶ月に及んだが、その後の写真選択と校正作業も膨大であった。その上に百周年式典と同時に図書館2階で開催の「北野百年展」をも担当するという多忙と過重負担のため、執筆者はフェスティバルホールの行事に出向けなかったばかりか、百周年記念体育大会当日には全員ダウンしてしまった。私は73年度の3年学級担任であったが、

今でもこの年の記憶は断片的で、86期生には申し訳なく思っている。

しかしながら、校史編纂に関わったお蔭で得られたものは甚だ多い。その中の一・二だけ記しておこう。

I: 北野の歴史的特徴について知ったこと。

文明開化時代に、府当局の開明的政策の一環として創立された欧学校(集成学校)は、「中学」であるよりも「下等外国語学校」であると思うにいたったが、この開校初期の事情や性格の影響で、儒教的徳目から成る校訓がないのだといえよう。「百年史」以後も、この問題を少し調べてみた結果、「創立百周年」の「六稜の人びと」と、昨年の冊子「北野120年展」の小文で報告したように、北野の教育では「至誠」「自由」「紳士」が戦前からの重要語で、これらの首業は単独にはなく「自由」を要に、あるいは運奏低音として、「至誠と自由」「紳士(たること)と自由」という風に、組み合わせられて働くとき、北野は成長、発展したように思う。

基調は戦後も変わっていない。北野戦後史に屹立する林 武雄元校長の存在が何よりの証拠である。一般に、自由は平等とペアにされ勝ちであったのに対して、「自主性」あるいは「個の確立」と関連して尊重された。「創立百周年」に寄せられた「思い出るまま」など参照)120周年学校式典および今春の卒業式での六稜同窓会稲畑勝雄副会長(当時)の、大阪の歴史的特性や近代世界の傾向との関わりで「自由」の伝統を強調された格調高い祝辞に私は感動したが、これももうひとつの好例証といえよう。(稲畑会長の祝辞は「北野図書館報」第35号に掲載された。)

II: 多くの貴重史料について思うこと。

「北野百年史」は、主として校内所蔵史料に依拠して書かれた。百年前からの文書や図書が自然に残るわけがなく、数度の移転や災害、戦火を潜って、幾人もの教職員が苦勞して保存しておいて下さったのだが、その中で、次の二史料が近代日本中等教育史上、ことに貴重であろう。

(イ) 『府下尋常中学校長会議録』2冊。1896(明治29)年から1940(昭和15)年までの、私立を含む大阪の旧制中学校長会議の記録。当番校長の自筆。

(ロ) 『本校学事年報』綴1冊。1889(明治22)年から1926(大正15)年までの、各年度の校内状況を府へ報告した年報の控え。多くのことにつき、具体的な数字を知ることができる。他に1889年以前分の断片も残っている。

その他にも、明治前半期に使用の英独語で書かれた教科書、明治後半期以後の日誌類、校友会誌「六稜」とその前身誌全冊など多数。それらの史料は図書館で保管しているが、大阪府最古の中等学校の故に、その多くは掛け替えのないもので、永久保存は関係者の義務であろう。

同じことは、林 重義(28期)、佐伯祐三(30期)、吉原治良(36期)、手塚治虫(59期)などの芸術作品、野間 宏(45期)の自署入り著作集をはじめとする受贈図書や貴重図書などについてもいえる。これらも永久保存されねば

ならぬ。

このとき、六稜史料館（仮称）建設構想ありと仄聞する。わが胸は躍る。実現を切望する。

また、竹山 聖氏(85期)の校舎改築案を瞥見の機会に恵まれる。借越ながら、氏こそ、歴史的感覚に富む建築人というべきか、と思う。この案は是非とも実現したいものである。

ところで、自明のことを一言。貴重資料や貴重図書は、校外の公共図書館等に寄贈して保管すればよい、との意見をきくが、先輩諸兄姉は母校北野に作品・図書などを寄贈したのである。受贈者である北野高校は、そのことを絶対に忘れてはなるまい。無論、一般市民に広く観賞・閲覧の機会があるのは望ましい。約10年前、校内で非公式に、図書館利用の市民への公開を検討する時期になってきた、といったことがあるが、真剣に考えるべきである。なお、百年展以後、記念展示は公開性を次第に高め、昨年の120年展では、祝日の11月3日を公開日としたし、十三のタウン誌も六稜会展ともども、取材、報道したのであった。

記念展示は、中村 弘先生(49期)の御指導による点が多い。中でも110年展のとき、佐伯祐三研究上重要な未発表書簡4通（北野での級友神吉逸治宛）が神吉 健氏の御好意で展示されたが、その契機は中村先生によって与えられたのであった。

図書館のことなど

いつの間にか、話題は図書館のことに入っているが、私は、校史編纂委員会が1973年度末でなくなり、図書館に校史業務は属することになったので、翌74（昭和49）年度から図書館係に、そして長く主任を仰せ付かることになった。

1963（昭和38）年度の校務分掌大改定以前、図書館は教務部所属だが、歴代主任は次の通りである。（敬称略）
琴石鉉吉（1948～61）→錦田真和（1962～66）→
眞田重雄（1967～70）→高木種夫（1971～72）→
山崎謙吉（1973～75）→上田浩石（1976）→柏尾洋介（1977～89）→小出 猛（1990～）

錚々たる顔ぶれの中で、13年間主任を続ける間に、社会相の急変に抗し難く、とわが無能ぶりを標上げして置いているが、蔵書冊数は増加して閲覧室の一部を臨時書庫に転用したものの、利用率は低下の一途をたどった。

年度	蔵書冊数	延べ利用冊数	年度	蔵書冊数	延べ利用冊数
1953	19,470	14,104	1978	48,621	3,746
1963	30,427	17,518	1983	54,538	3,821
1968	34,898	11,675	1988	60,277	5,793
1973	42,289	5,483	1993	65,513	2,896

注1. 蔵書冊数は全日制・定時制合算、他に旧職員図書未整理分1万冊以上。延べ利用冊数は全日制分。

注2. 1953年に旧図書館が、68年に現図書館がそれぞれ閉館した。

図書館業務の大半は、すでに整っていたから、私の在任中に始めたことといえば、図書費の予算制導入（1978年度）と図書館報発行（1982年7月、年3回刊）くらいである。図書費の全額が府費になってからも、おおらかな北野の教職員は予算制を採らなかったが、少々不便につき、78年度に導入した。これに関する会計事務から分類・出納や生徒の読書相談などまで、図書館業務全般は助手の中川淑子さんの尽力による点が甚だ大である。

『休暇中の読書』を『図書館報』に発展させることができたのは、中野祐二・小川泰彦・寺井あかね各氏のおかげであり、題字は高岡靖弘氏が快く引き受けて下さった。

しかし、中野・小川・寺井・高岡の諸氏は、兩三年来の促進人事で誰ひとりとして、もはや北野には居ない。

おわりに一愚痴を交えて

話題は強制異動に戻るかのようであるが、次の表を一覧していただきたい。1982（昭和57）年春にはじまった促進人事は、初年度に伏谷峰典・水落和沖両氏という文字通り掛け替えのない方々を北野から奪った。異動基準がその後強化され、60歳定年制が施行（1985年春）されると、定年直前の退職者が幾人も出たが、逆に数年で転出する教師は減った。その他の注は省くが、ひとつだけ数字を紹介する。昨春・今春の着任教師の平均年齢は43.5歳と41.8歳、離任者は定年退職者を含んで44.7歳と38.4歳である。北野は少しも若返らず、骨を埋めることができなくなったのではないか。北野という“文化環境”（110周年時の村田義人校長の言葉）を担う教師のことを云々するのは、これくらいにしておこう。ただ、校風と

年	常勤教員数	その平均年齢	北野での平均在職	北野での在職期間				
				20年以上	20～15年	15～10年	10～5年	5～0年
1966	57	40.2	9.5	4人	14人	8人	8人	23人
1971	56	43.8	12.4	15	6	6	21	8
1976	57	44.9	14.2	17	4	17	7	12
1981	65	42.3	12.6	14	15	6	9	21
1986	67	39.5	9.0	13	3	5	19	27
1991	69	40.3	7.9	5	2	14	24	24
1994	64	41.8	7.9	3	2	12	23	24

いうものをどう考えるか、母校というものをどう考えるか。然るべき人にききたいものである。

最後に北野への批判と提言を少々。北野の校風がいつまで生きていられるか、心配ではあるが、元来から問題がなかった訳ではない。草創期は男女共学であったのに女性（教職員も生徒も）と教員以外の職員の立場を忘れ勝ちではなかったか。男子生徒のみを想定した校歌の歌詞を変えよ、などと馬鹿げたことをいうつもりは毛頭ないが、女性から見た、あるいは事務職員等から見た「北野戦後史」もあって良いと思う。北野の新しい発展のためにも。

（1994. 8. 12）

柏尾洋介(かしお ようすけ)氏略歴

もともと大阪市出身だが、1930(昭和5)年7月、府下茨木市に生まれる。旧制茨木中学校から旧制浪速高等学校に進むも、戦後学制改革で新制京都大学文学部の第1期生となる。1953(昭和28)年、京大文学部史学科西洋史専攻卒。1956(昭和31)年、同修士課程修了。その間、1955(昭和30)年より清水谷高校講師、58(昭和33)年教諭、66(昭和41)年北野高校へ転じ、91(平成3)年3月定年退職、特別講師となり現在に至る。

演劇部、弁論部、社研部、新聞部の各顧問の他、古くから陸上部も顧問。近年は美術部の顧問。また本文に記したように、「北野百年史」を分担執筆。「創立百周年」を編集・執筆。昨年の120周年時には「北野120周年一史料と作品」を担当し、冊子執筆。

新校舎は平成10年に完成か

現校舎の老朽化にともなう校舎新築は、平成6年度に基本設計を終え、今年度は府の財政悪化のために休止、来年度に実施設計の段階に入る。順調に進めば平成8年度に着工し、10年度に新校舎完成となる予定。財政上の事情で当初の計画より遅れているが、着工がさらに遅れる可能性もある。

基本設計案作成には、建築家・京大助教授の竹山聖氏(85期)と高橋上田設計事務所の高橋清文氏(72期)、大谷明德氏(78期)のご尽力を得た。本誌次号では、後世に誇りうる学校建築となるであろう新校舎の全容をお伝えすることができるだろう。

「櫻守」笹部新太郎翁(17期)の後継者

桜研究者・久野友博氏(54期)逝く

(平成6年8月22日)

久野友博氏は、翁なきあとも、笹部桜の増殖・研究を続けられ、母校にも同桜を寄贈された。

六校会報(No.20, 1987. 10. 1)の笹部新太郎翁を偲ぶ座談会で久野氏は次の様に述べておられる。

「笹部さんの桜研究のもっとも大きな目標は、品位に欠けるソメイヨシノの氾濫に抗して、山桜を基本としたソメイヨシノに優る新品種を創り出すことでした。

(中略) 笹部さんはこの桜を生み出したんですが、本当はこの桜を母体として色々な名桜を生み出し、東京生れのこの桜で巻き返しをはかりたかったんじゃないでしょうか。私もこれらの桜の全国普及を志してはおるんですが、六校の同窓の中から笹部さんの遺志を継いで下さる方々の出現を願望して、締めくくりの言葉とさせていただきます」

◇表紙の話題◇

今回の表紙の絵の作者、佐伯祐三(30期)に因んで、幼なじみの深谷三治氏(31期)の思い出を記をご紹介します。

深谷氏は平成5年12月1日に91歳の天寿を全うして永眠された。この一文は昭和59年9月、85歳の時に書かれたものである。原文には祐三の兄、祐正氏のことや実家の光徳寺の図面なども書かれているが、北野に関する箇所だけに要約させていただいた。

佐伯祐三のこと

深谷三治(31期)

佐伯の生家は西成郡中津村大字光立寺の光徳寺であり、寺と僕の家とは大層親しかった。彼とは中津尋常高等小学校(当時、箕面有馬電鉄といった阪急電車の中津停留場が明治43年3月10日に設置されたが、そのすぐ北側にあつて、現在も同じ場所にある)の同年級であつた。

彼の小学校の成績は中以上で、絵は上手だつた。当時は手本に似た絵を描けば良い点をくれたが、彼は原画にない棒を描いたり、それに唐草模様を描き加えたりした。

彼は高等1年修了後、明治45年北野中学に入学し、僕は翌大正2年に入学した。当時の北野中学は、阪急線を隔てて直線距離200メートル位南にあつた。

彼は野球部に、僕はテニス部に入った。彼は、ピッチャーとしては素晴らしい強球を投げるとかと思うと、時にはホームベースにたたきつけるような暴投もした。バッターとしても大物を飛ばすかと思うと、大きく空振りすることもしばしばあつた。アダ名は「ズボ」だつた。ズボラの略である。

後に聞いたことだが、バッターボックスに立つた時、来る球をあれこれとゆっくり考える余裕などはない、ここぞと思った時に全身の力をこめて打つ。絵を描く時も、いろいろ構図を考えた時よりも、急に頭に閃いたインスピレーションにより一気呵成に描いた時の方が快心の作ができたということである。

北野中学の絵の先生に、北野卒で東京美術校出身の中村幾興という人がいて、その先生に卒業後どうするか尋ねられた時、彼は、パリに行って絵の勉強をすると答えた。先生は、そんなことができるものかと言つた。フランスに行くには船で1カ月を要した時代であつた。

彼がパリで亡くなった時、結核性脳膜炎ということだつたが、当時は結核なる言葉を口にするとさへ憚られた。自宅光徳寺で取り行なわれた葬儀には、彼と北野中学の同級で特に親しかった坂本勝さん(後に兵庫県知事・県立近代美術館初代館長)も来ておられた。坂本氏は「菊の香や棺をめぐりて夜もすがら」という弔句を即吟せられたが、僕は芭蕉の「明月や池をめぐりて夜もすがら」と、漱石の「あるだけの菊投げ入れよ棺の中」の両句を結び付けられたものと思つた。祭壇のローソクが倒れて、打歌の一部を焼いたが、すぐ消し止められたことを憶えている。

夢想

題字 阿部俊一先生



「マグロ」との 道連れ

須田 明 (57期)

はじめは医者になるつもりだった。ところが、いざ大学を決めるドタン場になって急に気が変わった。一生はたった一回、絶対嫌にならない自信のある魚の世界へ行きかけたのである。医学部の方へは辞退願いを出した。さて、当時の学生生活はハラペコの毎日、そのときにうってつけのアルバイトが転がり込んだ。国の研究所でマグロ調査の助手を捜しているというのである。マグロという魚にも興味があったし、それに船に乗っている間は飯も食わせてもらえる。その頃でもマグロ船の一航海は30~40日、その間飯が保証される。こんな有り難いことはない。体も丈夫そうだし、とにかく乗ってみるということになった。

昭和24年のことであった。船は40トンの木造船。銚子の漁船をチャーターしたものである。漁場は小笠原。エンジンは自慢の戦車の改造エンジン。ところが出港して2日目の夜、そのエンジンがぶっこわれた。エンジンが止まると水が入ってくる。バケツリレーも空しく、船は水船となる。この辺りは、すでに黒潮の向こう側、青が島も越えた辺りであった。海流はアメリカを向いて流れている。夜になると船の中から波の音が聞こえてくる。こうして、8日間の漂流生活が始まった。士気を鼓舞するために船頭(船の全実権を握っている怖くて偉い人、この人は船主だった)はギンメシを炊けという。船についたサメを釣って、その肝を煎って脂をとって、前の航海で釣ったカツオやサワラの天ぷらを作る。旨いメシにありついたが、これから先が大変である。毎日、マストに上がって双眼鏡で助け船を捜す。夜になると、ドラム缶をマストに担ぎあげて重油を燃やすのである。これはよい目印になる。果たして8日目の夜、焼津のカツオ船が見つけてくれた。こうして私の初航海は終わった。銚子で下船するときに下に船頭が立っていた。ピョコンと頭を下げたその船頭に、「これで海は怖いものだと思って下さるな」と言われた。胸が熱くなった。こうして一生、マグロと道連れになったのである。

卒業して、国のマグロ研究チームの一員になった。その直後にマグロの研究所は南国高知に移転した。当時、日本のマグロ漁業は急速な拡大期にあった。新漁場の生物学的な特性を知ることと、その生産性を評価することが仕事だった。この頃は随分船に乗れた。調査船よりは業船が好きだった。赤道の海を走りまわった。海も空も

真っ青だった。人生で最も楽しい日々だった。半年以上、海上にいたことも何回かあった。結婚したのもその頃だったが、女房が初めて小生の顔を見た時、それはそれはギョッとしたりしい。日本人離れした黒さだったようである。

そんな或る日、水産庁の廊下を歩いていると、「おい須田、ちょっとこい」と呼び止められた。当時の水産庁はこのように荒っぽい役所だった。その頃、パプア・ニューギニアは豪州の信託統治下にあつたが、国連で地域開発の遅れを指摘され、困った豪州が我が方に漁業協力を申し込んできた。さてアイデアはあるかというのである。なんぼでもあります。カツオが一番ですと申し上げた。当時、赤道の南側のカツオ資源については余り知られていなかった。そんな所にカツオがいるのかと半信半疑である。カツオは絶対いる。カツオがいるかないか今更調べる必要はない。問題はカツオ釣り用の生き餌を確保することだけだと言った。こうして、カツオの生き餌を求めて、ニューギニアから、ラバウル、キャピエンと珊瑚礁のなかを歩きまわることになった。沖縄には昔から追い込み網という独特の漁法がある。これは南洋の灯火に集まらない小魚を獲るにはもってこいだと思う。こうして復讐前の琉球水産試験場にも協力してもらうことになった。私の乗った現地の調査船は約10トンのボロ船、夜になると珊瑚礁の奥深く投錨する。真っ暗なジャングルからの鳥や獣? の雄叫びは感激であった。乗り組みの大半は現地の人達で、彼等が真っ暗の海のなかに飛び込んでゆく。やがてデッキに貝が集まる。シャコの刺身を随分食べた。ラバウルやウエワクには戦争の傷跡も随分残っていたが、現地の人達とは随分親しく仕事が出来た。セビック河の中流にある部落の集会所を訪れた時に、鳥の形をした古い彫り物を貰った。あとでその筋の人からこれは通常貰える代物ではないとびっくりされた。5年の仕事が終わる時に、国旗(極楽鳥)のデザインの入ったタイピンとカフスを大臣から貰った。その後、この地域へは沖縄の人達を中心に多くの日本漁業者が合弁事業に出掛けていった。

実はこれより少し前、昭和40年頃から、マグロの仕事は急激に様変わりしつつあった。この漁業が急速に国際化していったためである。FAOのマグロ専門家会議を皮切りに、世界のあちこちでマグロの国際委員会が動き出した。国際会議ではしばしば国家間の立場の違いや、言葉の違いがあつて、このことを思うと国を榮つときはいつも鉛を飲み込んだ心地であった。英語の劣等生にはまことに辛い日々であった。

そんな日々の合間に、マグロの飼育技術の開発もやった。お前は正気でマグロを飼う積もりかと人々に冷やかされた。今日では、南日本のあちこちでマグロが飼われ、そのマグロが生贖のなかで卵を生み始めている。そのうちに、人工種苗を使ったマグロの繁殖が始まる。また、資源の不足を一時的に種苗の放流で補うということも可能になるだろう。

ところが、昭和50年、200海里問題が沸騰していると

東京六稜会 報告

養島 絃一 (75期)

春は曙。風薫る平成6年6月2日、東京六稜会(会長河崎晃夫・49期)第37回総会が、日本工業倶楽部にて催されました。

会の運営は、今年50才の誕生日を迎える昭和38年卒業の75期一同がその任に当りました。又、総会に先立つ講演会演者も幹事期の誰かがそれを務めることになっております。

当日参会者総数は155名(一般133名、学生18名)ご来賓として下記4名の方にご上京賜りました。

母校校長	山崎浩和先生
母校教員	鎌田俊一先生
同窓会事務局長	新原知廣(72期)
同窓会事務局	鴨脚佐(74期)

会は綜合司会を岩木俊氏(63期)、進行係を中村大二郎氏(75期)のもと行なわれました。

PM6:00よりの講演は、大阪信愛女学院短期大学教授児童心理学者馬場桂一郎氏(75期)により「子供の心」と題した講演が行なわれました。子育て真っ盛りの方は勿論、とくに終えた女性聴衆(こちらの方が多かったかな?)にも興味津々の話題を、硬軟まじえての熟弁で、年度幹事が意図した「講師の魅力でOGの多数参加を!!」との目論みを十二分に果たしていただきました。

アサヒ・スーパードライご寄贈で7時よりのパーティーも盛り上り、時代を越えた交歓の輪が繰り広げられました。

終りに近く恒例の抽選会では北野の誇り、佐伯祐三の額付複製画やTシャツ等、幹事が苦心して収集した品々が当選者に手渡され、失意と歓喜の渦に会場は包まれました。

フィナーレでは、竹井泰二様(59期)のリードで校歌放吟し、同窓会ご惠贈の母校手ぬぐいを手に来年の再会を約した次第です。

付け加えて一言……

本年幹事学年(昭和35年入学)が母校入学の年は60年安保の年で、学内外騒然の世に、自から政治を語るにはまだ少し幼な過ぎ、卒業(昭和38年)の時代は、ビートルズには時間差有り……という何となくエアポケットに入り込んだような北野の3年間だったように思えます。

何しろこの世に現われたのが昭和19年4月~20年3月の間で、戦中と云えど戦争は知らず、まして戦後でもない中途半端な時代なのですから。

男子300人、女子150人の構成にも係はらず、女性上位の状況は高校時代のみならず、今だにその残滓を引きずり続ける学年であったとの感慨は私人が持つ心持ちではなさそうです。(博本先生も田上先生もいつお逢いしてもそうおっしゃっておられました。)

因みに本37回東京六稜会への75期参会者はおおむね女性2に対し男性1の割合で、ひ弱ではないが優しき一杯の男子と、したたかきとは一味違う力強さを維持し続ける女子との融和により会を無事終える事が出来ました。

きに突如霞が関に引っ張り出され、25年間続いたマグロとの縁を切られてしまった。霞が関では研究部参事官という役人臭い仕事で、200海里時代にそなえて技術問題を検討せよというのである。もうマグロのことは忘れることにした。かわりに、サケの放流技術開発や、海洋牧場の構想作りをやった。酒の味もこの頃になってやっと分かった。その後、早めにお国を辞めて、日本栽培漁業協会で約10年間、タイやヒラメの放流技術開発にタッチした。いつのまにか私も「作る漁業」屋だと思われるようになった。一方、この頃からマグロ漁業は苦難の道を歩きはじめたのである。外国からの輸入の増大、イルカの混獲問題、クロマグロのワシントン条約上程問題等々。しかし、そのようなことも、小生には薄々伝わってくるだけだった。ただ、私としては豪州のミナミマグロ養殖事業の発足に携わっただけだった。

一昨年、栽培漁業協会から二度目の停年退職をして今年こそ骨を休めようと思っていたら、日本鯉鮪漁業組合連合会からボツボツでよいから仕事を手伝えという話があった。直感で、これはしんどい話だと思ったが嫌しかった。やはりマグロの血が騒ぐのである。今から考えると、幸運なことに私は戦後のマグロ漁業史そのものを歩いて来たような気がする。しかし、マグロ漁業も私自身も若い頃とは違う。私自身について言えば、霞が関以来随分飲んだ。そして沢山の脳細胞が死んだ。耳も遠くなった。何よりも、本を読むファイトがめつきり衰えたのがよく分かる。ただ、マグロ漁業は死なせたくない。今月末には大西洋マグロ会議に向けてマドリッドへ出発する。丁度50回目の外国行きである。

(すだ あきら氏略歴)

昭和25年 東京大学農学部水産学科卒業、農学博士。
昭和25年 水産庁南海区水産研究所ならびに遠洋水産研究所にてマグロ研究に従事(昭和42~47年、FAOマグロ専門家会議委員)。
昭和50年 水産庁研究部、参事官。
昭和54年 水産庁養殖研究所所長(昭和51~平成6年、海洋開発審議会専門委員)。
昭和56年 日本栽培漁業協会常務理事(技術担当)。
平成3年~ 日本鯉鮪漁業協同組合連合会特別嘱託。

(六稜五七会記念誌・星霜五十年より転載)

六稜五七会では卒業50周年を記念して本年6月、大岡の記念文集、「星霜五十年」を発刊した。森繁久弥氏(45期)が特別に題字と檄文の筆をとっている。大半が昭和14年入学、19年卒業という軍国主義一色の中で、当時の北野中学にただよう自由な雰囲気が見えとれて、好ましい一冊である。放っておけば埋もれてしまう大切な一時代を一人一人が語り部として、北野を語っており、六稜外史としても貴重なものである。

六稜同窓会だより

第5回 期別対抗ゴルフ

71期悲願の初優勝

強豪72期(昨年優勝)を押える。

(西宮高原・6月25日)

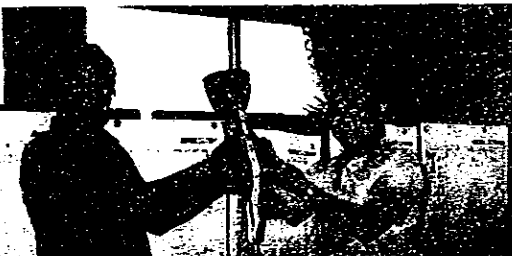
期別対抗では、72期が過去3回優勝しており、第3回の3位もスコアでは同点で勝ちを先登の67期に譲ったほどでほぼ常勝といわれていたが、本年度は71期がひそかに選手層を固めて悲願の勝利を手にし、キャプテン奥嶋保君に大トロフィーが贈られた。

71期出場メンバーとグロススコア。

1. 山本雅弘	81	久田一郎	92
2. 今井克一	82	山保良三	99
3. 塚田雄一郎	84	松田全弘	99
荒木光明	85	南里貢太郎	103
5. 東口義仁	88	トータルポイント	427
松本将	92	(上位1・2・3・5・	
7. 奥嶋保	92	7位の合計)	
北浦康弘	92		

順位	期	1位	2位	3位	5位	7位	トータル
1位	71期	81	82	84	88	92	427
2位	72期	82	90	91	92	96	451
3位	68期	87	88	89	94	96	454
4位	69期	82	89	92	101	107	471
5位	66期	92	94	94	95	98	473
6位	73期	85	90	91	100	107	473
7位	62期	88	89	91	100	106	474
8位	63期	86	90	93	105	115	489
9位	70期	86	101	101	105	113	506
10位	74期	89	95	99	104	122	509
11位	75期	95	97	97	101	122	512
12位	76期	96	106	107	114	118	541

他に参加7名に達しなかったが、60期、61期、65期、67期、78期がオープン参加した。ベストグロスには神宅寿昭君(67期)の79であった。



悲願の優勝盃を手にした
71期 奥嶋保 キャプテン(右)

クラブ対抗ゴルフ

“陸上競技部2度目の優勝”

本年度(第6回)は9月1日(木)西宮高原で開催され、陸上競技部が1昨年について2回目の栄冠を手にした。これで過去の戦績は、野球部3勝、陸上競技部2勝、ハンドボール部1勝となった。

陸上競技部出場選手とグロススコア

半田雄次郎(74期)78、林 徹(65期)79、岩倉一雄(65期)87、吉田 亘(66期)98、松岡茂雄(66期)102、岩本洋子(69期)110、黒川直明(71)NR。

順位	部	1位	2位	3位	トータル
1位	陸上競技部	78	79	87	244
2位	ハンドボール部	81	84	84	251
3位	野球部	83	83	88	254
4位	応援団	83	87	88	258
5位	演劇部	85	89	90	264
6位	バレーボール部	84	85	103	272
7位	水泳部	89	91	99	279
8位	体操部	76	93	113	282
9位	卓球部	85	97	100	282
10位	柔道部	88	102	108	298

オープン参加、ラグビー部、剣道部、サッカー部、山岳部。ベストグロスには体操部、藤本紀男君(72期)の76。



優勝の陸上競技部チーム

左より、黒川直明、松岡茂雄、林 徹、岩倉一雄、岩本洋子、吉田 亘、半田雄次郎

ゴルフ天高戦

第6回 琵琶湖で勝利：

対戦成績 4勝1敗1分けに。

天高とのゴルフ対抗戦は3勝1敗1分けのあと、本年4月20日琵琶湖カントリーに六稜42名(内女子7名)、桃陰42名(内女子5名)が参加。男子合計では敗れたものの、女子で圧勝し総合で勝利を手にした。このところ、我が北野は女子の戦力で勝利を手にすることで有名。第7回は来る11月10日(木)、西宮高原で開催される。

六稜外史フラグメンテ—北野図書館報より

北野高校図書館はよみごたえのある館報を発行している。その中から、同窓生にも興味のあるフラグメンテ(断章)を転載させていただくことにした。六稜同窓会としての将来の構想である六稜会館に併設される史料館からも、館報が発行され、大阪の文化に新しいページを加えることができればという願いをこめて御紹介する。

— 梶井基次郎の落書き — (第5号より)

芝田町の済生会病院の位置に本校があった大正7年、(1918)頃の話。

校舎の北側に宝塚少女歌劇最大のスター雲井浪子(NHK・TV「連想ゲーム」の坪内ミキ子の母)が転居してきた。北中生たちは朝礼後の駆け足でその前を通ると飛び上がってのぞき込んだりした。宝塚ファンとなって通うものも出てきた。ついに学校は生徒の宝塚行きを厳禁する。

この処置への反発からか、教室(講堂説もあり)の机(板塀説もあり)に

娼婦の媚を見んと欲すれば宝塚へ行くべし

と大書するものが出た。さあ大変、きびしい詮議となったが犯人は不明。今秋逝去の高橋貞郎氏(34期尚文堂前会長)も半世紀後の回想文でこの事件にふれている。

当時5年生の梶井基次郎(32期)が実は犯人だった。

『檸檬』の作家は、厳格で有名な英語の稲津慧峰先生にひそかに告白して「胸がすうっとした」と三高入学後、親友の大道俊英氏(32期)に話したという。

梶井基次郎のある本質にふれる挿話ではなかろうか。

— 男女共学事始 — (第10号より)

明治6(1873)年8月12日、大阪府学務課(課長日柳政惣)は各小学校へ、集成学校(本校の前身、英語で全科を授業、校内では「平常ノ談話ト難モ習熟ノ為メ洋語ヲ用ユルヲ善トス」と定めた)に優秀な女生徒を試験のうえ入学させるから、各校一名推薦し、明13日午前8時に同校へ出頭せよ、と命じた。

短兵急もいところだが、女子に学校教育は不要とする人びとが圧倒的であったその頃だから、生徒・父兄・小学教師のすべてが困惑したようだ。集成校へ「女生徒罷出様御達候共、病氣多ニ付、断書」を関係者が持って行ったりした(『北浜学校日誌』)。

18日午前8時にやっと女子教場開業式があげられたが当日の入学生徒10名、うち2名の姓名が判明している。秋田美津と津田らく、彼女たちこそ本校最初の女生徒である。

但し、教室は男子と別々であつたらしく、授業もフランス人女教師レイモント(16歳)が担当した。

時代を先取りし過ぎた共学は、しかし定着せず、レイモントは明治8年4月で満期解約、女生徒は13年3名在籍の後は昭和23(1948)年の学制改革による大手前との交流まで68年間、その姿を見ることがなくなるのであった。

みんなに愛される 建築だけが残っていく

竹山 聖さん(85期)

「設計が決まったという感じは、バスケットのシュートをねらって決まったという感覚に近いですね。建築家は運動神経がないとだめだと思います」

竹山聖さんの話は、意外なことばから始まった。建築家とスポーツ……、いったいどう結び付くのだろう。

「空間をとらえることができるかどうかということです。僕は頭脳の運動神経と呼んでるんですが、これがないと、部屋を作るとか都市の中に位置するということについては考えられません。建築家は、物の形が空気を切り裂いた、空気の震えのようなものを感じられないと、いいデザインはできないんです」

スポーツはもちろん、音楽やファッションにも幅広い知識と関心をもっている竹山さん。世の中のライフスタイルの変化には常にアンテナを張り巡らせている。

「建築家は、本来アイデアを売る人なんです。雨漏りを防ぐにはどうすればいいかみたいな技術的な問題を研究するのはエンジニアの仕事。新しい空間とか、新しい生活についての考え方を生み出すのが建築家なんです」

そういった建築家やビルなど建物への認識は日本でも少しずつ出始め、特にバブル以後、変わってきた。

「バブルの時代、東京の25%が変わったわけですね。それによって建築や都市に対する人々の関心が高まったんだと思います」

建築業界の関係者ではない普通の人たちがお茶や酒の席で建築を話題にするようになった、それはたいへん画期的なことと言う。

「バブルまでは経済が街を造っていた。それがバブルが崩壊して、街は景観を考えて造るんだというふうには都市生活者の考え方が変わってきた。都市というのは、そこに土地を持っている人たちのためじゃなくて、そこで生活する人、自分たちのためのものだというところに気がつき始めたんだと思います」

ビルを造ってもなかなかテナントが入らない今の時代。これからの都市はどうなっていくのだろう。

「人々に愛されない建築は、もう残らないですね。フランス革命でバスチーユの牢獄は壊されたけど、ルーブル宮殿は残った。それはパリの市民がルーブル宮殿を愛していたからなんです。これはパリの景観になくはならないものだと考えて、美術館として残したんです。日本でもそういった考え方が少しずつ浸透していくんじゃないでしょうか」

大学の先生でもある竹山さん。その語り口は学者っぽくなくソフトだ。それは街で生活し、スポーツを楽しみ、音楽を愛する生活者としてのことばだからだろう。

(国民生活センター発行「たしかな日」1994.9月号より転載)



やっと出来た放送部OB・OG会

昨年10月31日に放送部OB・OG会設立記念パーティーが母校食堂にて開催された。放送部は1949年(昭24)に創部して今年で45年になる。各世代のOB・OGと元顧問の福田博造先生、井田博之先生、木村昌義先生の総勢50人が集まった。OB会設立は約20年来の元部員達の悲願であった。

OB名簿の作成に取りかかったのが約8年前。完成の目途がついた92年、99期砂原淳達を中心にOB会を本格的に計画した。あわせて記念パーティーと会報発行の準備を始めた。会報「スタジオ」創刊号の「放送部の歴史」特集における取材は何十年もの隔たりのある先輩、後輩を巡り合わせる契機となった。取材にあたった若手記者の話を総合すると「会ったこともなければ、話をしたこともないのだが、同じ放送部の先輩であったという事だけで親切に対応して下さり感謝の念を大変深くした」様である。

パーティー当日は66期の小林俊策氏(現ラジオ大阪編成局長)による記念講演が行われた。当時はまだ市販されていないテープレコーダーを自作した事や放送記者時代の回想、最近のマスメディアの動向等について興味深い話が繰り広げられた。この後参加者全員が自己紹介をし、各々が放送部にまつわる思い出を語った。

今後は総会と会報を中心に活動を続けていくことになる。現役部員の活動を応援しつつ、OB・OG間の親睦を深めて行きたいと思っている。

住所等が判明せず、案内をお送り出来なかった方が多数おられる。心当たりの方は放送部OB会事務局までご連絡下さい。

事務局 〒562 箕面市桜ヶ丘1-16-24 宮田有希子
宮田佳代子(102期)



同期会の連絡、会員へのお知らせなどにこのコーナーをご利用ください。掲載申込みは事務局まで。紙面の都合上、文面を改変することがあります。

(営利を目的とするものなど、本誌の趣旨に添わない場合はお断りいたします。)

★66期卒業40周年同窓会のご案内

- 日時 平成6年10月2日(日)正午より午後2時まで
- 会場 大阪ヒルトンホテル5階 桜園の間
- 連絡先 丸野豊子 ☎06-331-0007
松岡茂雄 ☎06-943-0266(会社)
☎06-952-6666(自宅)

★六後69期会(昭和32年卒業)

- 北野入学40周年記念のつどい。
- 日時 平成6年10月16日(日)午後6時
 - 会場 ウェスティンホテル 大阪
- すでに100名を超える申込みがあります。ぜひ多数で北野入学の喜びを再現しましょう。
- 事務局、菅 正徳
☎06-203-7521 FAX06-203-7522

★来年度「61期同窓会」のお知らせ

毎年1回開催の61期の懇親会を、来年平成7年は、6月24日(土)に新阪急ホテルで開催することに決定しました。家族同伴もだんだん定着しつつあり、是非、予定欄に記入しておいてください。(61期 内藤壽一)

★六後六七期会(昭和30年卒業)

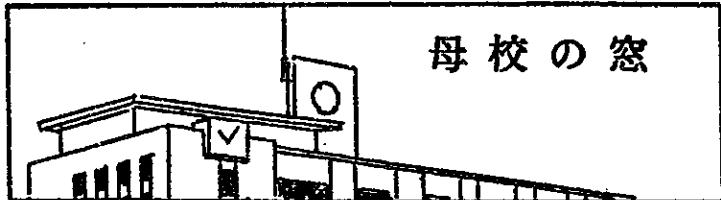
卒業40周年記念同期会(予告)
六後67期生は昭和30年に卒業して、来年は40年になります。そこで記念同期会を次の要領で開催いたします。来年のことですが、ご予約おきください。

- 日程 1995(平成7)年11月18日(土)~19日(日)
 - 会場 有馬グランドホテル
- 日帰り・一泊は各人のご都合でお決めください。
(詳細は平成7年9月初旬ごろに個別にご案内します)
(幹事) 神宅寿昭(大阪市北区西天満3-3-4)
☎昼06-375-2778
☎夜06-364-0620

★六後さんご会(72期、昭和35年卒業)総会予告

卒業35周年の同期会を有馬で一泊、35年遅れの修学旅行にぜひ参加してください。

- 日程 1995(平成7)年6月17日(土)~18日(日)
 - 会場 有馬グランドホテル
- (幹事) 磯村昭夫(豊中市緑ヶ丘2-7-12)
☎06-849-1075



母校の窓

平成6年度 第4回

文化活動助成金 決定

文化祭当日、平成5年度文化活動振興賞（生物研究部およびオーケストラ部）の授与式に続いて、平成6年度の助成金の審査が行われ、申請のあった吹奏楽同好会に第4回文化活動助成金が与えられることになりました。

クラブだより

平成6年8月1日 現在

【物理研究部】

文化祭では、パソコンでのBASICプログラムを発表。今年目標はBASICを越えてC言語やアセンブリ言語に挑戦すること？！

また、昨年受験したアマチュア無線4級は全員（4名）合格。それにともないアマチュア無線も行う予定。

【演劇部】

文化祭において、「僕らは生まれ変わった木の葉のように」を上演。

昨年、復讐したばかりの部で部員小数のため、公的な場での演技披露が難しいので現在、平成7年度文化祭に向けて練習中です。

【ESS部】

現在部員は三年生三名。部員不足に泣いてはいるが、仲むつまじく英会話に取り組んでいる。

【園芸同好会】

●文化祭用の苗の種まきから育てて当日の配布。

●旧図書館・化学講義室前のプランターの世話。

●あじさい・菊の挿し木。

○現在、会員6名で活動中。

【吹奏楽同好会】

4月 新入生歓迎演奏会

6月 本校文化祭

7月 日生球場にて野球部の応援

なお、7月下旬に夏期合宿を行いその後、吹奏楽コンクール小編成の部に出場します。どちらも初めての試みですが、成功するよう頑張りたいと思っています。

【放送部】

今年度の文化祭では、放送劇「DREAMS」を上演。役者が全員、女子というハンデを乗り越えてのことでした。

現在はKBS京都・全国民間放送連盟作品の制作中です。その後、水泳大会、体育大会でのアナウンスと音響の準備に入ります。

また、昼休みの放送も新しい放送卓で可能なことを、とRENEWALを計画中。乞、御期待！

【コーラス部】

4月 新入生歓迎演奏会

（コーラス、オーケストラ、吹奏楽合同）

6月 文化祭

混声合唱組曲「INTERRA PAX」より「INTERN TERRA PAX」「OH MY SOLDIER」他2曲

13人の新入部員でパワーアップ。

連絡先 〒533 大阪市東淀川区相川1-3-27 稜声会事務局

（水本淳也方）☎06-340-5698

【文芸部】

6月の文化祭では梶井基次郎研究発表と部誌「幻」の発行。部員も五人に増え、今後活動を広げていきたいと思っています。

連絡先 〒560 豊中市蛸池中町3-9-22 堀田恵美子

【美術部】

6月 文化祭、3教室で展示。今年は壁に、仏像をテーマにした絵をはりめぐらせました。

8月の高校展（天王寺美術館）に向けて、暑さに負けず、熱烈に制作中。

【生物研究部】

6月 文化祭出展（組織培養、冬季淀川水鳥調査、など）

文化活動振興賞受賞。

7月 昆虫採集（止々呂美）

7月下旬 氷ノ山での合宿予定有り
現在、オオクワガタを始めとするクワガタ類、カブトムシ（成虫・幼虫多数）スズムシ、カタツムリなど飼育中、花卉から組織培養したキクも元気です。

昨年に引き続き、文化活動振興賞をいただき、部員一同大喜びしています。これからもがんばって活動を続けていきたいと思っています。

連絡先 〒939-27 富山県婦負郡婦中町友坂243 上村 清

☎0764-69-5426

【漫画研究同好会】

6月 文化祭にてイラスト展示と特別会誌発行。

8月 千里市民センターにおける連合漫画祭参加予定。

今年は、会誌発行に向けて努力しております。

連絡先 〒562 箕面市稲2-7-19 一階千絵

【男子バレー部】

春の部別

対 磯島 1-2 負

対 高津 1-2 負

対 関大一 0-2 負

豊能地区大会予選

対 池田北 0-2 負

対 池田附属 2-1 勝

豊能地区大会決戦

対 箕面 0-2 負

対 池田北 2-1 勝

対 刀根山 2-0 勝

近畿大会

対 島本 1-2 負

天高戦

対 天王寺 1-2 負

【写真部】

今年部員が二名入り、休止していた写真部が再開。約一週間で撮影から現像までの技術を覚えこみ、文化祭では北野の校舎と球技大会の写真や、顧問の先生方の作品をお借りして展示。現在の主な活動は校舎の撮影と記録。とりあえずの目標は自分の手で撮影から現像までを完全にできるようにすることです。

【野球部】

1994年度、春季近畿地区予選大阪府大会、2回戦12-2門真、3回戦8-3河南、4回戦7-3旭、5回戦5-6柏原、ベスト16入り。定期戦8X-6市岡、0-12天王寺。全国高等学校野球選手権大阪府予選、1回戦18-0扇町高、2回戦5-0西淀川、3回戦4-7池田。

【男子バスケットボール部】

公式戦、全国高校総体大阪予選一回戦99-34堺市主商業、二回戦73-38四条畷、三回戦79-64金剛、四回戦70-59磯島、五回戦47-53生野。定期戦、四校定期戦57-58神戸、75-58灘。現在中央大会もしくはそれ以上を目指して活動中。

連絡先 〒662 西宮市苦楽園二番町10-47 岩田江一

☎0798-72-1726

【水泳部】

7月2~3日中央大会、男400雑20位佐藤、鳥谷、古谷、林下。女400雑15位入江、牟田、橋山、安川。男400混雑35位有本、久保、吉富、林下。女400混雑16位横山、四野、入江、安川。男800雑20位佐藤、鳥谷、古谷、林下。男200蝶27位吉富。女200自19位入江。女100平25位四野。女200混24位横山。女100自18位入江。男100蝶30位吉富。など、これからがシーズン本番です。今年は“全体的なレベルアップ”を目標に合宿などの練習にも力を注いでいく予定です。レベルアップしたR.S.Cの活躍を楽しみにして下さい。

連絡先 平成二年卒、松山貴志
〒532 大阪市淀川区西宮原1-3-2-502 ☎06-392-5361

【オーケストラ部】

4月 新入生歓迎演奏会

6月 文化祭

ベートーヴェン

交響曲第8番全楽章演奏

ただ今、ニュルンベルグのマイスタージンガー、美しき青きドナウを練習中。

【ハンドボール部】

男子

会長杯 1回戦 対枚方 16-8
2回戦 対北野B 15-9
準々決勝対豊島 16-22
(第3位)

天高戦 新人 27-3

現役 15-12

現在中央大会出場へ向け練習中

女子

天高戦 新人、現役共に勝利。

現在中央大会出場を目標に練習中

【剣道部】

(全国高等学校剣道大会大阪府予選)

女子

○中央大会

対三島勝 対初芝負

個人戦

対泉北負

(大阪総体)

男子

対堺工業負

女子

対枚野負

【ラグビー部】

公式戦、大阪総体(春季大会)、15-34

定期戦、45-0洛北

今後の予定、全国大会大阪府予選、

1回戦、9月18日(日)対成器高校、

場所、大阪城公園、開始、11時。2

回戦、9月25日(日)、対高津高校、

長尾谷高校の勝者、北野高校、10時、

3回戦、10月2日(日)、対関西創価

高校、4回戦、10月9日(日)、対大

阪工大高校、準決勝、11月13日(日)

決勝、11月23日(水)。

連絡先 六稜ラグビークラブ、〒560

豊中市緑丘2-20-7、自見弘之、

Ⅲ06-849-3633 医院Ⅲ06-301-

3962

【器械体操部】

94年5月、大阪高校春季体育体会(堺市立金岡公園体育館にて)に参加2部、男子団体総合第6位入賞。

主将橋本裕介、個人総合11位。

7月下旬、府立高校大会(堺市立大

浜体育館にて)8月下旬、大阪高校

総合体育大会(同上にて)11月上旬、

新人大会(金岡公園体育館にて)に

参加予定。現在の部員数は、男子3

名、女子2名、今年は少人数のため

合宿をせずに、8月1日~5日に強

化練習を行う。

【合気道】

僕たちは現在男子8人、女子7人

という状況ですが、「気とは何か」と

いうことを一人一人が考えながら朝

に夕に、一生懸命鍛練しております。

今年は顧問であられた高岡先生と宮

本先生が転任され、中西先生や今村

先生、徳永先生、橋本先生、山口先

生に顧問になっていただき、合気道

四段の中西先生には技術指導もして

いただいております。夏休みは毎年

恒例となっている吹田道場での5日

間の合宿を行い、阿部先生、木下先

生に御指導いただきました。1年生

は来年の演武を、2年生は昇段試験

を目標とし、部員一同が一つになっ

てがんばっております。

【六稜山岳部】

我が六稜山岳部は日頃のトレーニ

ングで体力をつけそして月々の山行

を楽しむべく部活動を行なってい

ます。その結果として今年もインター

ハイ出場権を獲得しました。

935月 大阪高校春季登山大会4位

8月 夏山(燕一大天井一槍)

10月 大阪高校秋季登山大会2位

945月 大阪高校春季登山大会1位

(I、H出場決定)

8月 夏山(立山-薬師)

◇ インターハイ(高山)3位

◇ 第49回大阪総体 1位

(近畿大会出場決定)

9月 第40回近畿高校登山大会

連絡先 〒532 大阪市淀川区東三国

4-17-7 メゾンハヤシ201号室

新大阪教育センター内六稜山岳会事

務所 ☎06-395-3521

【サッカー部】

公式戦、春季大会、2-0門真西、2-1茨木東、4-0高石、1-1(PK 2-3)泉陽。目指すは全国制覇ノ約70人の部員が心を一つにして、日々練習に励んでいます。
連絡先 〒563-01 大阪府豊能郡豊能町新光風台5-9-4
難波寿太郎(六稜サッカー部OB会)
TEL0727-38-6837

【バトミントン部】

第48回大阪府春季体育大会。
二部ダブルス
西別府・前田組ベスト8
二部シングル
三好裕介ベスト16

現在、夏の総体に向けて、顧問安藤哲先生のもと、血のにじむような練習を毎日送っている。今年の目標は、二部ダブルス・シングル制覇。

【陸上部】

94年大阪インターハイ、森脇200m 400m 400H、佐藤800m 1500m・山下800m 1500m、新井100m 200m 25" 65決勝⑤位、川崎200m 400m、法貴200m 400m、廣井やり、羽馬走幅跳、4×100男(森脇、森井、阪本、川内) 4×400男(森脇、森井、佐藤、白銀) 4×100女(新井、川崎、法貴、山田) 49"14決勝6位、近畿インターハイ、新井200、4×100女(新井、川崎、法貴、山田)準決勝49"17、大阪選手権大会、佐藤800m 1500m、山下800m、羽馬7種5位、廣井やり、4×100(川内、井上、松尾、辻) 4×400男(佐藤、深井、川内、佐々尾) 4×400女(新井、川崎、法貴、中) 4'04"16決勝3位。羽馬は7種で近畿選手権に出場予定。

【応援部】

現在二年男子部員三名で奮闘中。
7月2日(土)日生球場で行われた市岡との野球部定期戦にはOBの支援のおかげで応援バス3台をチャーターし、プラスバンド同好会ともども、熱戦に花を添えることができました。部員募集中。
連絡先 〒533 大阪市東淀川区豊里1-3-47 清水和郎

【柔道部】

インターハイ予選
団体戦 対阿武野 3-2 勝
対池田 1-2 負
個人戦 中江3回戦進出
瀬田4回戦進出
女子団体戦3回戦進出
天高戦
点取り戦 3-5 負
勝ち抜き戦 4人残り 負
女子点取り戦 1-5 負
現在、中央大会を目標に活動中。

なお、新入部員募集中です。
連絡先 〒532 大阪市淀川区十三元今里2-11-17 サントハイム204号
川畑方 六稜柔友会 ☎06-309-0081

【男子テニス部】

大阪ジュニア：関ベスト64、友広本戦出場。春季総体：友広ベスト64、倉橋本戦出場。春季団体：ベスト16。春季赤坂杯：谷口本戦出場。夏季サンケイ：シングルス、重川本戦出場、ダブルス、石原・谷口本戦出場、パンクラフト杯：ダブルス、海老原・森本戦出場。
今年は二年生が四人しかいないので、公立団体は不利ですが、一年生と協力して賞状を取ろうとがんばっています。個人戦も近畿大会出場を目標にしています。OBの方々も、暇なときは是非コートに来て、アドバイスして下さい。

【ソフトボール部】

春季公立研修リーグ、予選リーグ 6-1堺商、0-1八尾南、0-9桜宮、6-5住商、3部リーグ、5-0市岡商、8-4市岡、13-14位決定戦、4-5泉北。1H予選、1回戦15-0賢明学院、2回戦2-9信愛女子。7/26~大阪総体予選二回戦進出、7/30~府立大会参加60チーム中ベスト8進出。9/18~部別大会に出場予定。
OGの方々へ、今年で創部45年になります。10/23(日)、11時より、北野高校で本年度のOG会を予定しています。是非御参加下さい。
連絡先 〒532 大阪市淀川区新北野2-5-13 鎌田俊一

【卓球部】

男子。北摂大会、シングルス、三村ベスト16。団体、2回戦負。インターハイ予選、ダブルス、三村・田中組ベスト32。団体、5回戦進出。現在男女共、近畿大会出場を目指し活動中。
連絡先 2-1 田中一樹 大阪市東淀川区豊里1-5-6

【女子テニス部】

現在、太陽の光がサンサンと降りそそぐテニスコートで、夏の暑さと闘いながら、大阪高校総体、夏季パンクラフト杯にむけて練習中。
又、7月26日から7月30日まで、毎年恒例であるハチ高原においての合宿では、より一層Powerをつけるよう、頑張ります。
連絡先 〒532 大阪市淀川区新北野2-5-13 中田義彦
☎06-303-5661

【女子バレーボール部】

春季部別大会、2-0佐野、0-2東豊中、2-0八尾南。豊能地区大会、2-0箕面東、2-0西淀川、2-1池田北、2-1池田、2-0刀根山、2-1渋谷。優勝。近畿大会大阪府予選、0-2東百舌鳥。定期戦、0-2天王寺。現在、大阪高校総体、府立大会に向けて練習中です。

【女子バスケットボール部】

私達女子バスケットボール部は、2年生11人、1年生12人、うちマネージャー5人のクラブです。
初心者が多い私達は、とにかく試合に勝つために、コーチのもとで、ほとんど毎日練習に励んでいます。先輩達のボールへの執着心の強さを受け継ぎ、更には愛情のあるバスケットボールのできるチームを目指しています。
●高校総体 決勝リーグ
四回戦-対箕面 44-34 勝
五回戦-対市立南 49-39 勝
六回戦-対羽衣 38-74 負
(大阪BEST16)
連絡先 〒662 西宮市苦楽園二番町10-47 岩田江一

大学合格者一覽表

(1994. 5. 2 現在)

立	男	女	計	立	男	女	計	立	男	女	計	立	男	女	計	立	男	女	計	立	男	女	計	
北海道大学	10	3	13	山口大学	1	1	2	学習院大学	1	1	2	同志社大学	68	23	91	流通科学大学	4	1	5					
東北大学	5	1	6	徳島大学	3	3	6	共立薬科大学	1	1	2	同志社女子大学	19	19	38	岡山理科大学	1	1	2					
秋田大学	1	1	2	愛媛大学	1	1	2	鹿沼義塾大学	25	1	26	ノートルダム女子大学	2	2	4	川崎医科大学	1	1	2					
筑波大学	2	1	3	九州大学	3	1	4	駒沢大学	1	1	2	仏教大学	1	1	2	産業医科大学	1	1	2					
千葉大学	1	1	2	宮崎大学	2	2	4	上智大学	6	2	8	立命館大学	39	13	52	西南学院大学	1	1	2					
お茶の水女子大学	1	1	2	合 計	10	30	40	昭和女子大学	1	1	2	龍谷大学	18	16	34	合 計								
東京大学	5	1	6	公 市	男	女	計	成蹊大学	1	1	2	大阪医科大学	1	3	4	名古屋大医歯技歯短	1	1	2					
東京外国語大学	1	1	2	高崎経済大学	1	1	2	成城大学	1	1	2	大阪学院大学	1	1	2	京都大医歯技歯短	2	2	4					
東京学芸大学	1	1	2	横浜国立大学	1	1	2	専修大学	1	1	2	大阪経済大学	2	3	5	神奈川職立衛生短	1	1	2					
東京工業大学	1	1	2	徳島文理大学	1	1	2	玉川大学	1	1	2	大阪経済法科大学	1	1	2	大阪府立看護短	2	2	4					
東京医科大学	1	1	2	岐阜薬科大学	1	1	2	中央大学	2	2	4	大阪工業大学	4	2	6	大谷大短	1	1	2					
一橋大学	3	3	6	静岡県立大学	1	1	2	津田塾大学	2	2	4	大阪産業大学	1	3	4	京都女子大短	10	10	20					
新潟大学	1	1	2	名古屋国立大学	2	1	3	東海大学	1	1	2	大阪歯科大学	1	1	2	大阪音楽大短	3	3	6					
富山大学	1	1	2	京都府立大学	4	4	8	東京工科大学	1	1	2	大阪佛蘭女子大学	2	2	4	大阪外国語短	1	1	2					
金沢大学	1	1	2	京都府立医科大学	1	1	2	東京女子医科大学	1	1	2	大阪電気通信大学	1	1	2	関西外国語短	2	2	4					
福井医科大学	1	1	2	大阪女子大学	3	3	6	東京農業大学	1	1	2	大阪薬科大学	1	13	14	平安女学院短	1	1	2					
信州大学	1	3	4	大阪府立大学	12	10	22	東京理科大学	9	4	13	大谷女子大学	1	1	2	大手前女子短	1	1	2					
岐阜大学	1	1	2	大阪府立大学	17	8	25	東洋大学	1	1	2	関西大学	73	62	135	神戸女子短	3	3	6					
静岡大学	1	2	3	大阪府立看護大学	1	1	2	日本大学	1	1	2	関西医科大学	3	3	6	松蔭女子学院短	5	5	10					
名古屋大学	1	1	2	神戸市外国語大学	1	1	2	日本医科大学	1	1	2	近畿大学	10	19	29	武蔵川女子大短	4	4	8					
名古屋工業大学	1	1	2	神戸商科大学	5	5	10	日本女子大学	2	2	4	四天王寺国際仏教大	1	1	2	合 計	37	37	74					
三重大学	1	1	2	経路工業大学	3	1	4	法政大学	4	2	6	摂南大学	3	3	6	準 大 学 等	男	女	計					
滋賀大学	2	1	3	兵庫職立看護大学	2	2	4	明治大学	2	2	4	梅花女子大学	3	3	6	筑波大学校	1	1	2					
滋賀医科大学	1	1	2	和歌山県立医科大学	2	1	3	明治学院大学	1	1	2	阪南大学	1	1	2	防衛医科大学校	2	1	3					
京都大学	59	8	67	神戸女子大学	1	1	2	立教大学	4	4	8	龍山学院大学	1	1	2	防衛大学校	1	1	2					
京都教育大学	2	5	7	高知女子大学	1	1	2	早稲田大学	31	5	36	大手前女子大学	1	1	2	航空保安大学校	1	1	2					
京都工業繊維大学	8	2	10	九州歯科大学	1	1	2	麻布大学	1	1	2	関西学院大学	67	51	118	合 計	5	1	6					
大阪大学	42	20	62	合 計	44	38	82	関東学院大学	1	1	2	甲南大学	12	21	33	専修学校等	男	女	計					
大阪外国語大学	1	5	6	私 立	男	女	計	金沢工業大学	1	1	2	甲南女子大学	4	4	8	外国の教育機関	1	1	2					
大阪教育大学	2	32	34	神戶学院女子大学	1	1	2	北陸大学	1	1	2	神戸学院大学	2	2	4	関西経専門	1	1	2					
神戸大学	32	24	56	埼玉医科大学	1	1	2	松本歯科大学	1	1	2	神戸国際大学	1	1	2	立大歯医歯短	1	1	2					
奈良教育大学	1	4	5	文 教 大 学	1	1	2	愛知医科大学	1	1	2	神戸女学院大学	11	11	22	兵庫栄専門学校	1	1	2					
奈良女子大学	18	18	36	文 教 大 学	1	1	2	京都外国語大学	5	5	10	神戸女子薬科大学	1	15	16	合 計	4	4	8					
和歌山大学	2	2	4	千葉工業大学	1	1	2	京都産業大学	2	2	4	松蔭女子学院大学	11	11	22									
鳥取大学	2	2	4	釜 淵 大 学	1	1	2	京都女子大学	13	13	26	兵庫医科大学	1	1	2									
岡山大学	2	1	3	桜 美 林 大 学	1	1	2	京都薬科大学	3	9	12	武蔵川女子大学	7	7	14									

120周年記念募金者追加

(8月10日現在)

前号で記載もれ3件

玉井 秀雄先生 (旧職員) 5万円。(同姓同名の42期の方と間違えて記載)

元木 春夫 (41期) 1万円。

磯村 昭夫 (72期) 1万円。

新たに募金をされた方5件

中江 喬三(28期) 1万円 藤井 富夫(64期) 1万円

諏訪 繁樹(51期) 1万円 酒薬美智子(75期) 1万円

浅井 正 (57期) 1万円

おわびと訂正 (前号記事訂正)

六稜会報No.27、山崎新名善会長の「就任に当たって」の本文記事、次のような表現上の誤りならびに誤植がございました。おわびとともに訂正致します。

「68万余の貴重な書籍」 ⇒ 「8万余の貴重な書籍」

「今回も1400余名の生徒諸君は」 ⇒

「今日も1400余名の生徒諸君は、」

「海外姉妹校提携による」 ⇒ 「海外姉妹校提携による」

事務局から

○六稜同窓会名簿(創立120周年記念)の残部が少しあります。購入のお申込みはお早めに事務局まで。

1冊6000円です。

○住所や勤務先などに変更がありましたら、必ず事務局にご一報ください。はがき、電話、ファックスのいずれでも結構です。

○各期の理事(幹事)の方、同期会を開催する場合、事務局にご相談ください。最新名簿データ、宛て名タックシール打ち出し、高速コピー機のご利用、会場のご紹介などのサービスもしています。

○事務局長(新原知廣)は月・水・金の午後、事務局(旧図書館1階)に詰めております。

六稜同窓会事務局

〒532 大阪市淀川区新北野2-5-13

大阪府立北野高等学校内

☎ 06-306-0374

Fax 06-306-1335

インターハイ3位に入賞して

六稜山岳部 野々目 延浩(3年)

登山というものは、本来、競い合うものではない。競技登山というものは、本来の登山とは異質のものであるが、ある程度自分達の評価を客観的に見る事が本来の登山の発展に関係するものではないかと思う。ここに我々のインターハイ3位までの軌跡を書いていきたいと思う。

今年のインターハイは富山県で開催された。登山競技は北アルプス大日・立山連峰で行なわれた。今大会で印象に残っていることは何と云っても「芸」であろう。

「芸」というのは選手どうしの交流を深めるスタントのことであり、あいにくの雨で2日目にする予定が3日目にずれた。毎年各校1校ずつで「芸」をすることになっており、6班では北野高校の「芸」が一番うけた。広島学院高校の「芸」もけっこううけていて、この2校で6班をわかせていたと思う。

「3位、大阪府立北野高等学校」と言われた時、我々はただ茫然としていただけだった。同じ大阪府で出場している箕面高校の女の子達が叫んだので、それからやっと実感がわいてきて我々は思わず歓声を上げてしまった。我々はこのインターハイに出場するために、すなわち府大会で優勝するために昨年12月から大会対策を取ってきた。インターハイの具体的内容等については2年上のインターハイを経験された先輩方にいろいろと教わり、その影響もあって入賞することができたのだと思う。

次に具体的な大会内容について書いていきたいと思う。参加条件は、一般的に各都道府県で優勝したチーム、男子1チーム(A隊)、女子1チーム(B隊)、そして隔年毎に2位のチームで男子のみ(C隊)である。我々は府大会で優勝したのでA隊として出場した。A隊のコースは、天狗平→雷鳥沢→ノ越→立山(雄山:3003m)→五色ヶ原→黒部湖→室堂だった。審査は、体力、歩行、装備設置、撤収、炊事、気象、自然観察、計画記録、救急、マナー等の審査項目に分かれており、その項目すべてを総合して、100点で上位から並べるといった方式である。では、具体的な審査項目について説明しておこうと思う。

①体力…リズム、チーム内外間の適度な間隔等によって採点。②歩行…歩行バランス、歩幅、スリップ、バックキングのバランス等によって採点。③装備…個人及び共同携行品の所持とその数量と使用性によって採点。④設営撤収…10分以内に設営し、その動作に手慣れているか等によって採点。⑤炊事…夕食時に石油コンロを使用すること、防風対策、燃料の量等について採点。⑥気象…天気図の完成から予報までを40分以内にし、その正確さ等について採点。⑦自然観察…ベーパーテストと地形図の読図によって採点。⑧計画・記録…計画書と記録帳及びその内容について採点。⑨救急…ベーパーテストと医薬品の所持について採点。⑩マナー…リーダーの指示の適切さ、チームワーク等について採点。上記の様な審査内容で採点される。

登山競技の場合、競技を意識し過ぎないことが上位入賞の鍵だと思う。しかし練習の段階で何もしないということではない。3年前のインターハイ静岡大会の時、ある先生は「競技登山は始まる前にその80%は終わっている」と言っておられたそう。つまり、順位の80%は、平地でどれだけ計画し、練習し、絶ゆまぬ努力を続けてきたかで決まるのである。我々は順位の事など考えず、平地のできるだけの事はやって、山の中ではできるだけ自然と親しもうと思ってきた。この様な本来登山に求められていることを自然な形で出さったおかげか我々の首に銅メダルがかかることとなったのである。

最後に、今回インターハイに付き添って下さった先生方、適切な助言をいただいたOBの方々、奨励金でお世話になった同窓会の皆様、本当にどうもありがとうございます。これからの六稜山岳部の発展を祈り終わりにしたいと思います。

山岳部インターハイ3位入賞 祝賀会

10月30日(日)PM5:30

(同窓会総会終了後)

十三プラザホテル 会費 10,000円

連絡先 林 閑二、(六稜山岳部会事務局)

☎06-395-3521

年会費は 2,000円です !!

よろしくご協力をお願いしまあす !!!

年会費制度の採用によって、随分と同窓会運営に余裕ができ、総会の運営・会報の発行、その他の事業も順調に進めてまいりました。ご協力を感謝し、謹んでお礼申し上げます。納入は郵便振替を利用して下さい。

番号 00990-4-68025 名称 六稜同窓会

▲お手元の六稜会報郵送封筒の表の 米印 は平成5年度年会費納入済の印です。

プロフィール

北野に吹奏楽同好会誕生

創立1年で大阪北地区代表校に。



創立120周年記念式典でのフィナーレに、応援歌「瀬江の水」と校歌「六稜の星のしるしを」が高らかに吹奏楽の伴奏でなされたことは記憶に新しい。創立後3ヶ月の大舞台であったが、部員一同懸命の演奏に好感もてた。

昨年7月正式に同好会と認められた際には、部長の藤原明紀君(3年)をはじめとする現役諸君の大きな熱意があったが、前任の貝塚南高校で一大プラスバンドをつくりあげた実績をもつ音楽科の佐々木信明先生の指導が大きかった。

本年7月2日、野球の市岡定期戦ではその向上した技術をいかに披露、伝統の一戦を盛り上げ、かけつけたOB連を喜ばせた。

一方、ほんの力だめしと初参加した7月下旬の大阪府高等学校吹奏楽コンクール(小編成の部)では北地区大会に於いて、優秀賞を受賞してよもやの地区代表校に選ばれる快挙をなした。

さすがに本戦大阪府大会では奨励賞を得るに止まったが創立1年でこのめざましい活躍には関係者も注目しているという。

現在部員は男子7名、女子26名の総勢33名、部長は創立時の藤原君から2年の西原亜紀さんにバトンタッチされ、北野に新しい吹奏楽をと全員猛練習に入っている。

六稜文化活動振興基金では新発足のこの同好会に本年6月楽器購入費の一部として活動助成金を贈った。

編集後記

「六稜会報」の編集を仰せつかったのは1977年のNo.10号だから、今年で17年になる。ピッチャー交替を考えるようになったのは2年ほど前のことで、その理由は単に齡還暦に達したからだけではない。どうも昨今の誌面づくりに満足できなくなっていたからである。同窓会の隔々までの取材が足りない。新しい企画に乏しい。何より腹が立ったのは、誌面に色艶がないことだ。

愚痴になるが、男女共学以前の世代。できれば若々しいレーディたちの活躍振りを、とも思い、現役の先生方の手をさんざわづらわせたものだったが、今やその先生方も学校を去り、あるいは病の床に伏され……いよいよ糧道を絶たれたような気分になって来た。

次回からは、編集長もスタッフも替わる。「六稜会報」の色艶もぐんとよくなるだろう。案ずることは何一つない。政治、宗教、金銭からの局外中立。「北野戦後史」のさらなる発掘。ぼくがちよっぴり跨れるこういった足跡はこれからも残るだろうし、……。

六稜同窓生の皆さん。永い間、御協力頂いて本当に有難うございました。また、同窓会でお互い元気を願ってお逢いしましょう。

こと 山本次郎